

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370301180		
法人名	社会福祉法人 総社保育園		
事業所名	グループホーム国府の里1		
所在地	岡山県津山市総社34-1		
自己評価作成日	令和5年10月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 5 年 11 月 8 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、個人個人の生活のペースや体調に配慮した生活が送れるように支援している。壁面作りを一緒に行い季節を感じれるようにしている。自分らしく、出来る家事、朝の掃除、調理、盛りつけ、洗い物、洗濯干し、たたみなどをして頂き、生き甲斐を持って暮らして頂いています。誕生日は好物でお祝いし、食事も喜ばれています。クリスマス会、節分、ひな祭りなど季節の行事を楽しんでおります。利用者様が元気に笑顔で過ごして下さる事が職員にとって喜びで、ホームでの生活が楽しいものになるよう、職員一同がんばっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

情報収集やアセスメントをしっかり行うことで、一人ひとりにあわせた笑顔や楽しみのある生活を送れるように心がけています。グループホームでの共同生活の中で一人ひとりのペースに合わせ、「出来る事」「やりたい事」を見つけ、職員と一緒に工夫しながら家庭的な暮らしの支援に努めています。食事は、入居者の出来ることを活かして職員と一緒に手作りしています。職員、入居者共にゆったりした雰囲気があり、ホーム全体が穏やかな時間が流れている様子が見受けられます。24時間体制の医療との連携など、家族との繋がりも大切にしたいあたたかいホームづくりが窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を廊下・事務所に掲示し、毎朝の申し送り時、理念を声に出し読んでいる。職員全員で理念を基にサービスを提供する事としている。	入居者が毎日楽しく笑顔で過ごせるように毎朝理念の共有を行い、実際のケアに繋がるように心がけています。入居者がその人らしく暮らし続ける事を支えていくサービスに努めている様子が窺えます。	今より笑顔で優しく接することを意識し、こだわりをもつことで、より入居者の笑顔あふれる支援に繋がることに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの保育園と祭りなどの行事を通じて交流している。園児や地域の方からすすきや花などの差し入れも有り、回覧板も回っており、地域の清掃作業に参加し交流を深めている。	近隣の保育園からはイベントの練習の音が聞こえ、ウッドデッキから入居者が子どもの応援をしたりしています。町内会に加入しており、回覧板から行事や清掃などの地域の情報を知ることができます。地域の清掃に職員が参加し、交流を深めている様子が窺えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を感染症拡大防止の為、再開出来なかったが、令和5年8月より地域の方の参加を再開して、認知症に対する情報を発信するようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議再開後、ホームでの取り組み、ご様子、行事の様子を報告している。参加の方に、ご要望・ご意見を伺いサービス向上に努めている。	運営推進会議が再開され、入居者と家族も参加しています。会議は、2か月に1回の研修報告もこめて行い、実施していることを知ってもらう機会にもなっています。他事業所や市の担当と情報共有することで、ホームのサービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	集団指導の動画配信、資料を参考にし介護サービスの運用に努めている。また、不明点があれば市へ問い合わせ回答を頂いている。運営推進会議にも参加して頂き、情報交換を行っている。	ホームで何かあれば連絡して連携を図っています。相談事や問題の解決など協力関係に取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内で勉強会や申し送りやミーティング等で資料を元に話し合っている。	身体拘束をしないケアを心掛け、入居前の生活歴や性格等の情報を家族・本人から聞くようにしています。1日1日を大切に、日頃の表情から思いなどを察知できるように努め、信頼関係を築くことで、身体拘束しないケアに繋がっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修やミーティングで勉強会をしている。また、職員がストレスを溜めないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人を活用している方がおられた。職員が理解出来るように、情報伝達や勉強会をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書・重要事項説明書の内容を時間を取って頂き説明し、同意を得ている。また、内容に変更がある時は、その都度説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。面会時、意見・要望を尋ねている。市の相談員は、感染症防止の為、休止としている。	家族との信頼関係づくりとして、話しやすい雰囲気や言い回しをするようにしています。意見があれば今後活かしたり、検討するために管理者会議で報告するようにしています。	小さな変化でも意識して家族に伝えることで、信頼関係がさらに強いものとなることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや、毎日の申し送りで、運営に関する意見交換を行ったり、管理者が職員に意見や提案を求め、反映させている。	管理者は職員と日頃から何でも話せる関係ができているため、法人内の園長と職員が面談をする機会があり、休日や勤務の希望は出来る限り反映し、重なった時には職員間で譲り合ったりする様な良い関係が築けている様子が窺えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部と管理者が管理者会議を行い、随時報告・相談・意見交換をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を勧め、研修を受けるよう配慮している。介護経験の少ない職員には疑問や不安を解消できるよう努めている。各自の向上心と質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの交流があり、ネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面接時に、ご家族や関係職員のお話やご本人の要望を伺ったり、生活状態・生活歴を把握していき、少しでも早く慣れて頂くための必要なケアを行うよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	抱えている問題、困っている事を伺い、ご家族の思いを受け止め、どのようにケアしていく事がご本人ご家族にとって良いか話し合い、良い関係作りが出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の思いや、状況を確認している。環境の変化による不安を軽減し出来る事をして頂き出来ない事を支援し職員が統一したサービス提供を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	地域の伝統、昔からの知恵や子育てのアドバイスを教えて頂いたり、花作り・家事を一緒にしている。利用者様と職員がお互いにして頂いたことの感謝を言葉に表し合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況報告を頻繁に行い、信頼関係を築き、ご本人の状態の把握をして頂いて、パイプ役になれるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方とご本人が直接電話で話をして頂き関係が途切れないよう支援に努めている。	面会は家族に限らず、入居者の友人でもできるようになっています。家族の方への手紙を職員がポストに出したり、友人からの電話を取り次いだりして、関係が途切れることがないような支援をしている様子が見受けられました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活面で支え合い、気遣いが出来るよう努めている。利用者様同士のトラブル時、職員が仲立ちを行い、場の雰囲気や和ませるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際にはアルバムや作品集をお渡ししている。入院されたり、他施設に入所された方にも、ご家族と連絡を取る機会があれば、現在の状況を伺って、ご家族からの相談にも対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いを伝えにくい方には、表情を読みとったり、自己選択して答えがもらえるよう声かけの工夫をする。日々の関わりの中で利用者様の立場に立って、思いをくみ取るよう努めている。	入居者一人ひとりを日々しっかり見守っています。思いが伝えにくい入居者でも、様子を見て、話をするときには頷きなどで思いを伝えられるような声掛けにできるように心がけています。家族や本人の意向を聞きながら、ホームで出来ることを検討して援助に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時面接にお伺いしたり、ご家族にライフスタイルストーリー用紙に記入して頂いている。またコミュニケーションの中で生活状態・生活歴・生活環境を伺い、知り得たことを職員全体で共有し、ケアに生かすように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解し、その日の状態により、その人らしく生活して頂く為に、その人全体の把握に努め、それを職員全体で共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中なかで、要望や思いを伺ったり、して頂いてとても喜ばれたこと等を、介護計画に反映させるよう、関係者で話し合い、モニタリングを行い、介護計画を作成している。	介護計画には、本人が喜んだことを計画に反映させ、さらにバックアップすることで次に繋がるように作成しています。今できることを無理せず実施し、役割を見つけることで、ホールで過ごす時間が増えたり、活力になっている入居者もいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を、時系列でご本人の発した言葉を交え、個々に記録し、特に変化があるときは、随時カンファレンスを行い、個々の介護経過と申し送りノートに記入し、口頭でも伝え情報の共有を行い、見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じて、希望・要望には柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理容サービスを活用している。保育園児がホームまでだんじり祭りなどに来てくれる事が有り、利用者様の笑顔も見られ元気をもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望するかかりつけ医となっており、受診はご家族に依頼しているが、緊急時やご家族の都合が見つからないときは受診支援を行っている。	受診は、ほぼ家族の協力で行っています。訪問看護は週に1回、往診は月に2回あります。夜中であっても管理者やかかりつけ医へ連絡でき、サポートがあるので職員の安心に繋がっています。受診前後には各病院と情報を共有するので本人の様子に合った医療が受けられるように支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回来所し、健康管理・相談・指示を受けている。緊急時等に電話相談し、適切な対応が出来るようにしたり、アドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書にて情報提供を行い、面会時に病院関係者との情報交換に努めている。ご家族には電話連絡や面会時に情報交換を行っている。また退院時には相談員・看護師等から情報提供を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、ホームで対応できるケアを説明し、同意を得ているが、必要があるときは、その都度話し合い、より良い方法を見つけるよう支援している。	家族と本人の意向を聞きながらホームで出来ることを支援しています。医療が必要になればかかりつけ医と相談したり、ご家族の希望される施設やバックアップ施設と連携を図っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル、対応経験者の話や実際に起こった事例を元にミーティング等で、随時確認している。緊急時対応を作成したり、個別に受診時ファイルを作り、緊急時に情報提供しやすいように準備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練(様々な想定)を行っており、避難方法等を話し合っている。近隣の椿寿荘、保育園、GH総社とも協力関係が出来ている。	火災や地震等の様々な想定をしながら訓練を行っています。何かあれば他事業所と連携をとりお互い協力できる関係にあります。以前の様に近所の方や消防設備会社の職員、消防署の方に参加して頂けるよう検討しています。	今後どんな自然災害が起きるか分からないので、様々な想定をした避難訓練の継続に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての尊厳を持って対応し、プライバシーの尊重に努め、プライドを損ねないような対応を心掛けている。	様々な場面で声かけする時は、威圧感がないように穏やかな雰囲気や声質、視線を合わせるようにしています。(トイレに誘う時にはプライバシーを守るために必ず傍に行き、小声にすることで周りに聞こえないように配慮しています。)	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を多くするよう心掛け、ご本人の思いを聞き出し利用者様に寄り添い、自己決定出来るような声かけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事など基本的な1日の流れは決まっているが、その方のペースを大切に、それに合わせた対応を心掛けている。その日の体調に配慮しながら、ご本人の気持ちを尊重し、希望を尋ねながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時候に合った衣類の中で、好みの物を着用され、おしゃれを楽しんで頂いている。乱れや汚れがある時はさりげなく対応し、衣服の状態管理を行い、破れ・サイズ変更等をご家族に伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食物や行事食等、共に考え、下準備、盛りつけ等一緒にしている。個々の状態に合わせて、飲み込みにくい方には、とろみ刻みなど形態を変えている。誕生日にはご本人の好物を提供している。	家族や職員の(季節の果物や野菜)差し入れもあり、また、食事は作るタイミングでメニューを考えていて、その場で入居者の希望があれば、食材をみながらすぐに対応して食への楽しみに繋げています。本人の出来ることをしてもらいながら、職員と一緒に手作りしている様子が窺えます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分量を把握し形態に配慮している。食事量が少ない方には医師に相談し栄養補助飲料を摂取されている方もおられる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけにて出来る方、介助が必要な方など、その方にあつた口腔ケアをしている。義歯洗浄も行っている。歯科医師往診で義歯が合わない方には、義歯調整、治療を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、プライバシーに配慮した声かけ・誘導を行い、トイレでの排泄を促すようにしている。また、パットや紙パンツの種類も、個々に対応している。	自立に向けて排泄を促し、能力にあわせた支援ができるように、衣服や下着の調整を家族にも協力してもらっています。ポータブルトイレの位置に困っていた入居者とは、話をしながら職員と一緒に位置を決めています。情報収集とアセスメントをしっかり行うように努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を勧め、バランスのとれた食事を提供し、運動に心がけている。排便チェック表により、オリゴ糖を使用し自然排便を促している。場合によっては訪問看護師に適切な処置を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調と希望により、対応している。拒否の続く方には言葉掛け、対応の工夫によって一人一人に合わせた入浴支援を行っている。お風呂が楽しみな方が多く、気持ち良かったと喜んで下さっている。	毎日入浴を実施しています。体調や希望も考慮し、生活習慣も大切にしています。拒否があるときには入浴したくない理由を探り、安心できる入浴方法を検討しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、なるべく活動して頂き、生活リズムを整えるよう努めている。個々に合わせて温度や、照明の調節を行っている。夜間の不眠時にはその都度対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴、病気、服用薬の把握に努め、錠剤が服薬しにくい方には粉薬、とろみをつけ服薬しやすくしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備・花・野菜の世話、洗濯干し・洗濯たたみ・テーブル拭き・拭き掃除等、出来ることをして頂き、毎回感謝を伝えている。体操・ぬりえ・絵合わせ・カルタ・歌等、好みのことがそれぞれ出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日に時々近所の保育園や公園、寺社に行ったり、ドライブに出かけたりしている。	気分転換として日頃から一緒に外で洗濯物を干したり、入居者が花に水をあげに行っています。職員がゴミ捨てに行っているのを見かけたら、自主的に手伝に来てくれる入居者もいます。紅葉等季節に応じて外出を行ったりもしています。家族との外出は今後再開出来るように検討しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として、事務所で預かり、ご本人の欲しい物、クイズ本、化粧品、日用品など、購入している。ご本人、ご家族の希望に添えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状が書けるよう準備しており、娘様やお兄様、ご友人に手紙を書き写真を添えて出している方もおられる。電話も一人一人の状態と、ご家族に負担のならないように配慮して支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時期にあった壁面を一緒に作成し飾っている。最近の写真をアルバムにして来訪者に見て頂いている。また、ご家族より、パッチワーク等を提供して頂いており、季節が感じられたり、家庭的な雰囲気の共用空間となるようにし、清潔感も保つようにしている。	ホームに入っただけでカラフルな壁面が多数あり、職員と入居者の穏やかな雰囲気が窺えます。壁面からは季節感が感じられたり、生花も活けてあります。視覚やホームの雰囲気からも家庭的な印象があり、居心地よく過ごせる工夫をしている様子が見受けられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの方が落ち着ける場所が決まっており、利用者様同士の馴染みの関係ができ、テレビを見ながら楽しく雑談されている。時には移動して会話を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や作品等を飾ったり、使用されていた家具・家電・寝具を置かれ、独自の居室が出来ている。居室前の名札は、入所時に自書して頂いている。	家族からの手紙や、本人が作成した作品を飾っています。入居者が自書した名札は木製のものもあり、暖かい雰囲気と、一人ひとりの個性が見受けられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室等は、理解して頂けるよう大きな字で案内している。状態の変化が見られた時はミーティング等で話し合い、自立支援に繋ぐことが出来るようにしている。		